

研究開発型外食企業

玄品グループ 株式会社 関門海

第 18 期 中 間 事 業 報 告 書

平 成 17 年 12 月 1 日 ～ 平 成 18 年 5 月 31 日





『食』こそが人間の根本です。

健康に良く、本当に美味しい『食』を
多くの人に喜んでいただける価格で提供するためには
技術開発しかありません。

目標は 10,000 店舗。

『食』を通じてあらゆる人たちにまごころと安らぎを提供する。

これが関門海の結論です。



株主の皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、研究開発型外食企業として「美味で健康的な本物のおいしさの追求」を目的とした技術開発を推進し、あらゆる人々に対して、品質面・安全面において差別化された「食」をより低価格で提供することにより、人々の豊かで健康的な生活を支える食文化を創造することを目指しております。

当中間期におきましては、とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の出店を継続するとともに、当期より出店を開始したかに料理専門店「玄品以蟹茂」の店舗展開及び様々な食材開発・技術開発により差別化された新規業態・新規事業の開発を積極的に推進いたしました。その結果、当社総店舗数は100店舗を達成いたしました。

今後につきましても、引き続きとらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の直営店舗及びフランチャイズ店舗展開の推進を中核としながら、「玄品以蟹茂」をはじめとする新業態の競争力強化ならびに更なる新規業態開発を併せて行うことで事業規模の拡大を進める方針であります。

今後とも皆さまのあたたかいご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

株式会社関門海
代表取締役社長 山形 圭史

営業の概況・財務ハイライト

関門海の当中間期における売上高は、とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の既存店舗の業績が軟調に推移したものの、前期及び当期における新規出店、フランチャイズ事業の拡大及びかに料理専門店「玄品以蟹茂^{いかにも}」の奇与などにより、4,107 百万円（前年同期比 15.6%増）となりました。

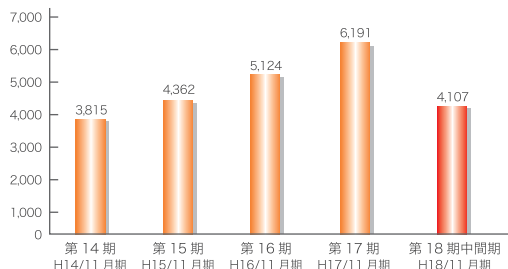
営業利益につきましては、新規出店等の利益貢献がありましたが、既存店舗の業績悪化による収益減少により 667 百万円（前年同期比 9.6%増）に留まり、営業利益率も 16.2%と 0.9 ポイント悪化いたしました。これに伴い、経常利益は 654 百万円（前年同期比 10.1%増）、当期純利益は店舗閉鎖に伴う特別損失の計上等により 365 百万円（前年同期比 6.5%増）となっております。

また、店舗数は、「玄品ふぐ」直営店舗 13 店舗、フランチャイズ店舗 2 店舗の出店及び「玄品以蟹茂」9 店舗（うち 5 店舗は「玄品ふぐ」からの業態転換）の出店により、中間期末における店舗数は 104 店舗（前期末比 18 店舗増）と 100 店舗を突破いたしました。

通期業績につきましては、新規出店、店舗業績の改善、フランチャイズ事業及び新規事業開発等の推進により、売上高 7,500 百万円（前期比 21.1%増）、経常利益 600 百万円（前期比 30.4%増）、当期純利益 300 百万円（前期比 48.6%増）を見込んでおります。

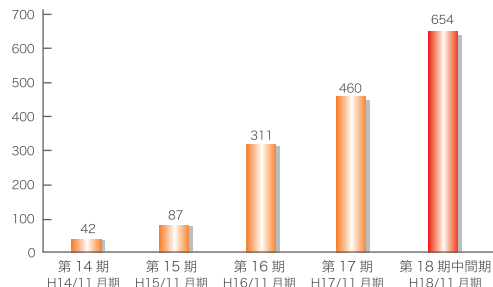
■ 売上高

（単位：百万円）



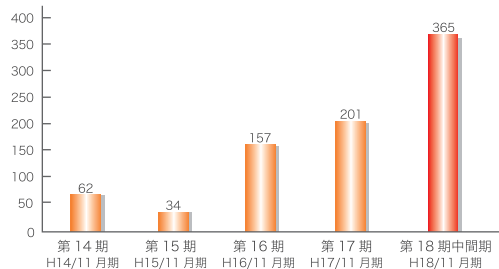
■ 経常利益

（単位：百万円）



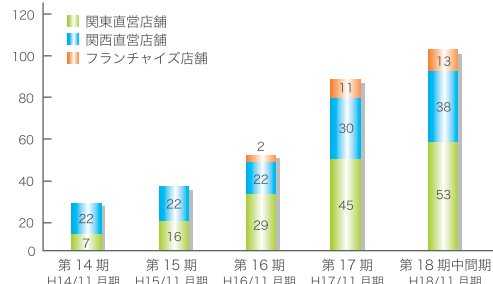
■ 中間(当期)純利益

（単位：百万円）



■ 店舗数推移

（単位：店舗）



平成17年

平成17年12月

- ・「ずわいがに」旨み向上技術の事業化として、かに料理専門店「**いかに蟹茂**吉祥寺店」をオープン

平成18年

平成18年1月

- ・「**いかに蟹茂**戸越銀座の関」の「**いかに蟹茂**」への業態転換に成功

平成18年3月

- ・たらばがに旨み向上技術が確立し、「**いかに蟹茂**」全店舗にたらばがにメニューを投入
- ・「**いかに蟹茂**六甲道の関」をオープンし100店舗を達成

平成18年4月

- ・「**いかに蟹茂**」フランチャイズ加盟件数が個人オーナーを中心として30件を達成
- ・「**いかに蟹茂**」直営店において、店長業務委託制度を本格導入
- ・「**いかに蟹茂**東心斎橋店」（関西地区1号店）をオープン

平成18年5月

- ・**いかに蟹茂**ナレッジマネジメントシステム稼動

TOPICS-1 店舗数100店舗を達成

平成18年3月に「**いかに蟹茂**六甲道の関」をオープンにより、当店舗数は100店舗を達成いたしました。中間期末における店舗数は、「**いかに蟹茂**」が、直営店舗81店舗（関東地区45店舗、関西地区36店舗）、フランチャイズ店舗13店舗（関東地区8店舗、関西地区5店舗）の計94店舗、「**いかに蟹茂**」9店舗（関東地区8店舗、関西地区1店舗）、その他1店舗の合計104店舗となっております。今後もフランチャイズ加盟件数の増加も加わり、継続して店舗展開を推進していく方針です。

TOPICS-2 とらふぐ料理専門店「**いかに蟹茂**」店舗運営について抜本的に見直し

主力事業であるとらふぐ料理専門店「**いかに蟹茂**」については、既存店舗の業績が繁忙期である第1四半期に急激に鈍化したことから、依然として収益性が高い業態ではあるものの、さらなる店舗展開を支える店舗運営力強化施策について抜本的な見直しを行いました。

具体的には、これまで研究開発に裏付けられた商品力を最大限に表現することを最重要テーマとして注力し、100店舗を超える店舗数を支える営業施策が不十分であったことから、各店舗での営業力を強化するため自立した店長の育成とナレッジマネジメントを重点テーマと設定しております。そこで、平成18年4月に店長の責任・権限及び報酬体系の明確化と自立心の喚起を図ることを目的とした店長業務委託制度を本格導入いたしました。また、平成18年5月に各店舗で構築された店舗運営に関するノウハウを蓄積するため、**いかに蟹茂**ナレッジマネジメントシステムを稼動させました。

今後も「**いかに蟹茂**」を差別化された食材と店舗運営力を両輪として積極的な店舗展開を推進していく方針です。



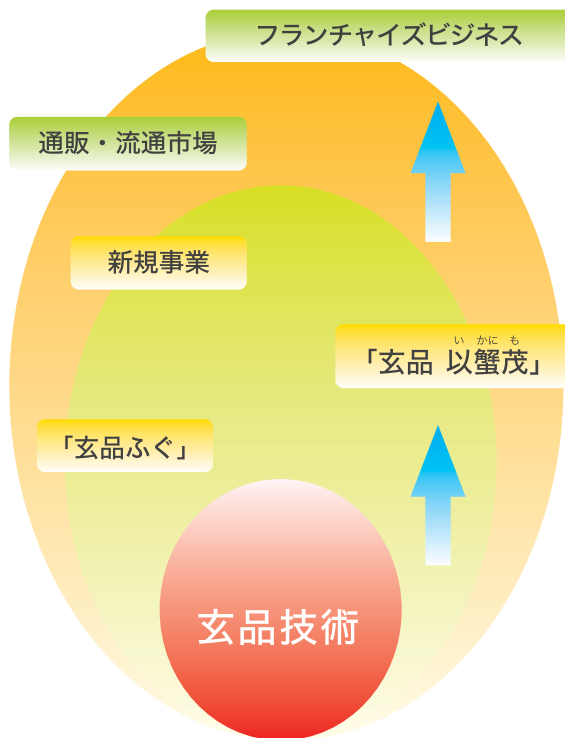
TOPICS-3 かに料理専門店「**いかに蟹茂**」6ヶ月で9店舗の出店を実現

平成17年12月に東京都武蔵野市においてオープンした吉祥寺店が順調に立ち上ったことから、自社競合の可能性のある「**いかに蟹茂**」5店舗の業態転換及び関東地区2店舗、関西地区1店舗、計3店舗の新規出店を行い、短期間で9店舗の出店を実現し、多店舗展開への体制を整備いたしました。

また、商品開発にも注力し、平成18年3月にたらばがにメニューを投入するなど、現在は当初と比較し幅広い顧客層に支持されるべくメニュー開発を進めております。



研究開発型外食事業



関門海は「研究開発型外食事業」という独自のビジネスモデルにより成長を実現してまいりました。

研究開発型外食事業とは、「美味で健康的な本物のおいしさ」と「食材の価格競争力」の実現を目的として開発された技術（関門海では玄品技術と呼んでいます。）によって、食材の圧倒的な価格競争力を実現していくという考え方です。他の外食企業は食材の仕入やメニュー開発には積極的に取り組んでおられると思いますが、食材の技術開発に徹底的に取り組んでいるのが関門海の特長です。

開発された食材の事業化としては、まず直営店舗を出店して収益性や問題点を確認し、将来的にはフランチャイズなどへシフトしていく方針です。主力事業である「玄品ふぐ」ではとらふぐの調達原価が技術開発によって半分以上となったので、直営店舗の展開からフランチャイズへのシフトを開始しています。今後については、当社の現状の経験・ノウハウを分析し、実現可能なものは、従来どおり業態開発を行ってまいります。当面は「玄品以蟹茂」の店舗オペレーションの確立・フランチャイズ化が課題です。

しかしながら、当社技術を活用した新規事業の可能性は無限大です。今後は経験豊富な人材の確保及び他社とのアライアンスにより新規事業の開発を急速に推進してまいります。

1. とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」

主力事業の「玄品ふぐ」は、当中間期における既存店舗の業績が軟調に推移いたしました。言うまでもなく依然として非常に収益性の高い業態であり、早期に 300 店舗まで出店を継続する考えです。今後については、直営店舗の出店も行っていますが、加盟開発が順調に進んだことからフランチャイズ店舗の出店が増加する見通しです。

さらに当下半年より、九州地区等の地方都市への出店も開始いたします。

2. かに料理専門店「玄品^{いかに}以蟹^も茂」

「玄品以蟹茂」については、当中間期において9店舗の出店を実現し、今後「玄品ふぐ」と並ぶ当社の主力事業に成長させるべく店舗展開を積極的に推進する方針です。来期以降のフランチャイズ化を視野に入れ、当期においては仕入ルートの強化、業態認知度の向上、店舗オペレーションの確立により収益性を向上してまいります。

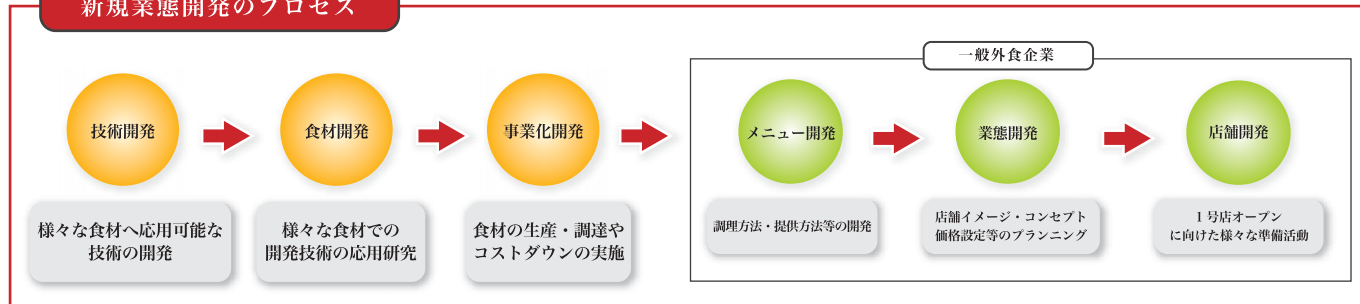
3. 新規事業開発の推進

当社技術を活用した新規事業開発については経験豊富な人材の確保及び他社とのアライアンスにより推進してまいります。

具体的には、当社開発食材である海老、魚介類、鶏肉、豚肉、カニ等を活用した新規事業として、平成 18 年 9 月下旬から 10 月上旬には、(株)バルニバービとの共同開発事業として同志社大学京田辺キャンパス内において大学内レストラン「アマークドパラディラテ」をオープンするとともに学生向け弁当販売事業も開始、平成 18 年 10 月にはスペインバル「バルデゲー」を東京都江東区豊洲にオープンする予定です。



新規業態開発のプロセス



財務諸表

貸借対照表（要約）

（単位：千円）

期 別 科 目	当中間期 H18.5.31現在	前中間期 H17.5.31現在	前期 H17.11.30現在
資産の部			
流 動 資 産	1,623,550	872,788	2,006,219
現金及び預金	868,327	234,138	686,191
売 掛 金	55,771	53,548	191,552
た な 卸 資 産	568,857	471,835	847,364 ①
そ の 他	130,593	113,267	281,110
固 定 資 産	2,804,046	2,305,845	2,526,256
有 形 固 定 資 産	1,983,903	1,548,946	1,743,668 ②
建 物	1,364,506	1,038,460	1,169,595
器 具 備 品	336,895	231,863	289,138
土 地	142,321	142,321	142,321
そ の 他	140,179	136,300	142,612
無 形 固 定 資 産	95,976	36,968	74,591
ソフトウェア	93,561	34,967	37,568
そ の 他	2,414	2,000	37,022
投資その他の資産	724,167	719,929	707,997
投資有価証券	35,450	93,150	53,975
長期前払費用	67,105	66,192	66,103
差入保証金	584,207	556,465	559,003
そ の 他	37,404	4,121	28,915
資 産 合 計	4,427,596	3,178,634	4,532,476

期 別 科 目	当中間期 H18.5.31現在	前中間期 H17.5.31現在	前期 H17.11.30現在
負債の部			
流 動 負 債	1,522,466	1,157,202	1,938,957
買 掛 金	62,707	52,084	130,849
短 期 借 入 金	300,000	200,000	600,000
1年以内返済予定の長期借入金	328,584	194,632	315,700
1年以内償還予定の社債	132,000	32,000	132,000
未 払 金	230,438	199,554	508,100
そ の 他	468,736	478,930	252,306
固 定 負 債	1,224,717	1,083,341	1,308,914
社 債	88,000	220,000	104,000
長 期 借 入 金	1,088,417	822,710	1,171,614
そ の 他	48,300	40,631	33,300
負 債 合 計	2,747,183	2,240,544	3,247,872
資本の部			
資 本 金	-	63,870	276,370
資 本 剰 余 金	-	86,366	385,366
利 益 剰 余 金	-	750,405	608,946
任 意 積 立 金	-	87,454	87,454
中間（当期）未処分利	-	662,950	521,491
その他有価証券評価差額金	-	37,447	13,920
資 本 合 計	-	938,090	1,284,604
負 債 ・ 資 本 合 計	-	3,178,634	4,532,476
純資産の部			
株 主 資 本	1,677,477	-	-
資 本 金	296,895	-	-
資 本 剰 余 金	405,891	-	-
利 益 剰 余 金	974,690	-	-
評 価 ・ 換 算 差 額 等	2,935	-	-
純 資 産 合 計	1,680,413	-	-
負 債 純 資 産 合 計	4,427,596	-	-

Point ①

たな卸資産

「玄品技術」によって長期保存されたとらふぐなどの食材を計上しています。
前期末に比べ、長期保存食材の消化等により減少しています。

Point ②

有形固定資産

前期末に比べ、主に「玄品ふぐ」13店舗、「玄品以蟹茂」9店舗の直営店舗を出店したことにより増加しています。

株式の状況

損益計算書（要約）（単位：千円）

期 別 科 目	当中間期	前中間期	前期
	H17.12.1～H18.5.31	H16.12.1～H17.5.31	H16.12.1～H17.11.30
売上高	4,107,616	3,552,181	6,191,570 ③
店舗売上高	3,730,182	3,357,703	5,569,343
フランチャイズ売上高	261,329	84,205	335,855
食材等その他売上高	116,104	110,273	286,371
売上原価	1,097,294	889,614	1,601,412
売上総利益	3,010,322	2,662,567	4,590,157
販売費及び一般管理費	2,343,237	2,053,996	4,092,585
営業利益	667,085	608,570	497,572
営業外収益	3,604	7,778	14,081
営業外費用	16,378	22,201	51,406
経常利益	654,310	594,147	460,247
特別利益	-	-	7,118
特別損失	18,174	7,064	103,356
税引前中間（当期）純利益	636,135	587,082	364,009
法人税、住民税及び事業税	270,391	243,681	190,662
法人税等調整額	-	-	▲28,595
中間（当期）純利益	365,744	343,401	201,942
前期繰越利益	-	319,549	319,549
中間（当期）末処分利益	-	662,950	521,491

Point ③

売上高
当社の売上高の大半を占める「玄品ふぐ」の店舗売上高は、業態の特性上、上半期に偏重する傾向にあります。

キャッシュ・フロー計算書（要約）（単位：千円）

科 目	当中間期	前中間期	前期
	H17.12.1～H18.5.31	H16.12.1～H17.5.31	H16.12.1～H17.11.30
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,070,095	741,699	500,235
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲543,367	▲438,845	▲1,090,958
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲345,691	▲377,005	966,054
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,099	2,221	4,792
現金及び現金同等物の増減額	182,135	▲71,930	380,123
現金及び現金同等物の期首残高	686,191	306,068	306,068
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	868,327	234,138	686,191

平成18年5月31日現在

株式の状況

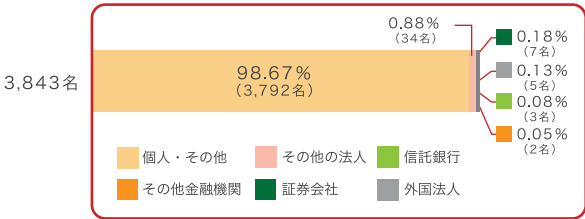
発行可能株式総数	200,000株
発行済株式の総数	58,580株
当中間期末株主数	3,843名

大株主

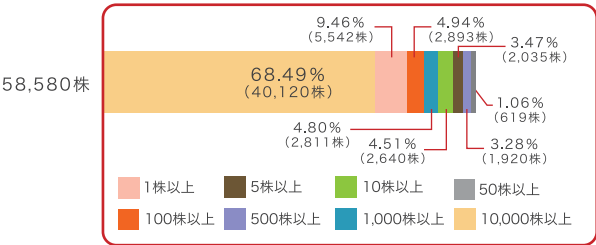
株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
山口聖二	40,120株	68.48%
関門海福株会	1,511株	2.57%
山形圭史	1,300株	2.21%
岡本洋一	960株	1.63%
吉崎晃敏	960株	1.63%
谷間真	404株	0.68%
浅野省三	400株	0.68%
東原誠	360株	0.61%
百瀬敬司	280株	0.47%
日本証券金融株式会社	273株	0.46%

※山口聖二は、平成17年11月15日逝去いたしました。現在遺産相続協議中のため株主名簿上
の名義で記載しております。

所有者別株主分布状況



所有株式数別分布状況



研究開発室では、新規食材を開発する場合、短期的な研究テーマ、長期的な研究テーマを区別して研究開発活動を推進しています。

短期的な研究テーマとしては、安い食材を仕入れて品質を向上させることで競争力のある食材の確保を図っています。当然、その食材の安全性の確保も怠りません。当社が推進する大学内レストランへの食材供給などにおいて使用される食材の大半が当社技術により旨み向上が実現した食材です。

長期的な研究テーマとしては、生産技術への取り組みです。現在はとらふぐの養殖技術の向上に注力していますが、この養殖技術が将来的には様々な食材の生産技術へ応用できるものと考えています。

さらに様々な研究開発の過程で得られた技術・ノウハウを活用した外食分野に限定しない新規事業開発についても今後は検討していく方針です。

<当社研究開発室の食材開発技術>

■ 養殖技術

関門海三重陸上養殖場における養殖技術の研究開発を終え、現在はとらふぐ養殖業者への技術指導を行いながら、陸上養殖から養殖業者と同じ環境での養殖技術・養殖ノウハウを研究し、3ヵ年計画で品質向上と大幅なコストダウンを実現すべく研究開発を推進しています。



■ 旨み向上技術

とらふぐ、かにに引き続き、市場において流通する魚介類、鶏肉、豚肉その他様々な食材に関する旨み向上技術を確認することで競争力を確保し、新規事業への活用を図っています。



■ 長期保存技術

鮮度を保持したまま、長期間にわたる保存・輸送を可能とする冷凍・解凍等に関連する技術です。

■ 安全性の確保

食の安全性を自社で確認するため、研究開発室において分析設備および人員体制を整備し検査しています。また、野菜などに残留する農薬等の有害物質を人体に無害な物質へ変化させる中和技術や失われた栄養成分を補填する技術なども店舗において活用されています。



■ 株主優待制度

株主優待制度概要

- 1 株以上 3 株未満 優待券 × 1 枚 (3,900 円相当)
- 3 株以上 5 株未満 優待券 × 2 枚 (7,800 円相当)
- 5 株以上 優待券 × 3 枚 (11,700 円相当)

対象となる株主様

毎年 5 月 31 日、11 月 30 日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主様



優待内容

(優待券 1 枚につき①～⑤のいずれかをお選びいただけます)

■ 「玄品ふぐ」

- ① 匠味コース 1 人前ご優待

■ 「玄品^{いかに}以蟹茂」

- ② ズワイ蟹鍋と炭火烧 2 人前ご優待
- ③ 3,900 円相当の割引

■ お取り寄せ玄品ふぐ

- ④ 3,900 円相当の割引

■ ヒレ酒

- ⑤ ヒレ酒セットを贈呈



■ 株主P A S Sについて

当社では、「株主とは、当社の経営理念に賛同してくださる大切なパートナーである。」との理解から、そのような株主の皆様から当社店舗に対するご意見・ご感想等を頂き、店舗運営の参考とさせていただきたいと考えております。

このような趣旨から、今後、当社では新メニューの試食会や新規店舗オープンレセプションなどご意見・ご感想を頂く機会を設定させていただく際に、当社株主であることの証明としてご提示いただく「株主P A S S」をご用意いたしました。

また、当社店舗をご利用いただく際には、当社スタッフとのコミュニケーションのきっかけとして是非お持ち合わせください。

なお、株主の皆様へのお知らせにつきましては、当社 I R N E W S メールマガジンによって行ってまいりますので、この機会にご登録下さい。

<キリトリ>

研究開発型外食企業

玄品グループ 株式会社 関門海

株主 P A S S

ハ
キ
リ
ト
リ
▼

株主メモ

決 算 期	毎年 11 月 30 日
定 時 株 主 総 会	毎年 2 月中
基 準 日	毎年 11 月 30 日
中間配当基準日	毎年 5 月 31 日
株式の売買単位	1 株
公 告 掲 載 方 法	電子公告による。(http://www.kanmonkai.co.jp) 但し、電子公告を行えない場合は、日本経済新聞に掲載する。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 5 号 三菱 U F J 信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	大阪市中央区伏見町三丁目 6 番 3 号 三菱 U F J 信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL：0120-684-479
同 取 次 所	三菱 U F J 信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店

＜キリトリ＞

関門海 I R NEWS メールマガジン

関門海にご関心を寄せていただいている株主様や投資家の皆様向けの
メールマガジンを発行しております。

リリース情報や IR 情報、決算発表日程など、
当社に関する様々な情報をタイムリーにお知らせいたします。

当社ホームページにて登録下さい。

<http://www.kanmonkai.co.jp/>

ハ
キ
リ
ト
リ
▽

会社概要

会 社 名	株式会社 関門海 KANMONKAI Co.,Ltd.
創 業	昭和 55 年 9 月 創業者山口聖二がとらふぐ料理専門店「ふぐ半」 (現「玄品ふぐ藤井寺の関」)を開店
設 立	平成元年 5 月
所 在 地	【大阪本社】 〒580-0041 大阪府松原市三宅東一丁目 8 番 7 号 TEL：072-349-0029(代表) e-mail：ir@kanmonkai.co.jp 【東京本部】 〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目 8 番 10 号 MA 芝浦ビル 2F
資 本 金	2 億 9,689 万円 (平成 18 年 5 月 31 日現在)
役 員	代表取締役社長 山 形 圭 史 取締役副社長 岡 本 洋 一 専務取締役 山 元 正 取締役 谷 間 真 取締役 吉 崎 晃 敏 取締役 大 村 美 智 也 取締役 本 多 正 嗣 取締役 林 泰 広 取締役 岩 本 昌 志 取締役 原 真 理 社外取締役 川 合 ア ユ ム 監査役 山 口 静 広 監査役 音 部 龍 司 非常勤監査役 浅 野 省 三 (平成 18 年 5 月 31 日現在)

従業員数 251 名(平成 18 年 5 月 31 日現在)

事業内容 ・「美味で健康的な本物のおいしさ」を追求する「玄品技術」による食材開発
・「玄品技術」による差別化されたとらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」、かに料理専門店「玄品以蟹^{いかに}茂」等の専門飲食店の経営及びフランチャイズ展開